

分離派建築会各作品展 出展作品資料

2016年9月 (Ver. 2.50)

作成: 菊地潤(分離派建築博物館)

●これは、分離派建築会による作品の全体像を明らかにすることを目的として作成したリストである。こうした資料の必要性を感じ、2007年に初めて作品掲載文献をもとに作成したが、前回同様、記載の補足、備考欄内容の修正・補足、若干の表記その他の修正を加えた。

●分離派建築会の作品収録誌は、岩波書店刊の『分離派建築会 宣言と作品』、『分離派建築会の作品』(第二刊)及び同第三刊の作品集が刊行され、そこに第4回展までの作品が掲載された。それ以降の作品展の内容は、『建築新潮』誌において、第5、第6、第7回作品展それぞれについて各特集号が組まれた。これらの書籍及び掲載誌が分離派建築会にとっての実質的な作品集であり、主要な資料と考えられる。

●しかし、作品展は7回の定期展の他、関西展など数回の不定期の展覧会が催され、あるいは第三刊のように複数回の展覧会の内容がまとめて掲載されるなどの当時の諸事情が相俟って、作品集に掲載された個別の作品がどの展覧会の段階において初めて発表されたものかについては必ずしも明確ではない。また展覧会で発表されたものの出版物には掲載されなかった作品の存在も窺われる。そこで、本資料では、出来る限り掲載された文献内容を時系列に即して拾い上げることにより、個別の作品の発表時期を推定する手掛かりとして活用することを狙っている。推定される作品の初出時期を、下表の主要掲載誌左欄に記した。今後も情報の追加とを随時行なうことを繰り返し、精度を高めるよう目指したい。

●本資料では、上記の目的に鑑み、作品展が行われた期間を便宜的にA~Fの時期に大きく区切り、その上で掲載誌を出来るだけ網羅的に拾い上げ重複を恐れず記した。

●末尾には付記として、戦後に刊行された分離派に関する文献と作品を列挙した。

●その他、以下の点を考慮して本資料の作成を行なった。

1. 作品記載順序は、概ね出版物の掲載順に倣った。
2. 推定出展時期とは、作品の初発表時期を推定したものであり、主要収録誌の左欄に分かる範囲で記入した。
3. 出展物について：模型の展示については一括して「模型」と記したが、実物と模型写真のいずれが展示されたかについて区別していない。
4. 出展物について：家具の展示については実物と写真のいずれが展示されたのかについて、判別できる資料は現状では皆無であり、一応「実物写真」と記した。
5. 出展物について：図版の掲載が無く言及のみの場合は「-」表示とし、備考欄に「記事」に記載の旨、記した。
6. 作品タイトル表記は適宜現代表記に改めた。
7. 分離派の人名はその当時の人名としたが、漢字の表記については適宜現代のものに改めた。
(濱岡周志は途中「蔵田」に姓を変える。山口文象は当時「岡村」姓、名は「蚊象」を名乗っていた)
8. 備考・所感欄には、具体的な実施建物名称、その他気付いた点などを記した。
9. 主な参考文献

- ・「東京帝国大学卒業計画図集」(1928、木葉会 洪洋社)
- ・「堀口捨己の「日本」」(「建築文化」1996、8月号別冊)
- ・「紫烟荘図集」(1927、洪洋社)
- ・「森田慶一 建築作品」(1986、京都大学建築学科教室)
- ・「山田守建築作品集」(1967、東海大学出版会)
- ・「建築設計競技」(近江栄、1986、鹿島出版会)

* その他、末尾に戦後刊行の分離派に関する文献と作品を付記した。

●2016年9月更新の内容

- ・第1回展における「公会堂」は3年の課題であった旨、石本 瀧沢、山田の備考欄に記載。(習作展で出展された可能性も考えられる)(吉田宏彦「分離派旗揚げの頃Ⅱ」(建築文化1952.12)による)
- ・作品集第3刊掲載 石本喜久治「ある小学校」は実作(大阪市立桃園小学校)であった件、備考欄に記載。
- ・作品集第3刊掲載 石本喜久治「市街地建築物法への抗議案として」はミス高層建築模型と類似した造形である旨、備考欄に記載。
- ・瀧澤による作品集第2刊「音楽と建築」、第3刊「建築観相」、第5回展「知られざる人々の偉業 中世紀主義論・序論」論考の備考欄内容更新。
- ・その他微細な修正

A. 習作展と第1回展

- 習作展 日時: 大正9年(1920年)2月1日、 場所: 東京帝国大学第二学生控所
- 第1回分離派展 日時: 大正9年(1920年)7月18日~22日、 場所: 日本橋白木屋

第1回展主要掲載誌

・『分離派建築会 宣言と作品』(岩波書店 大正9(1920)年7月18日発行)

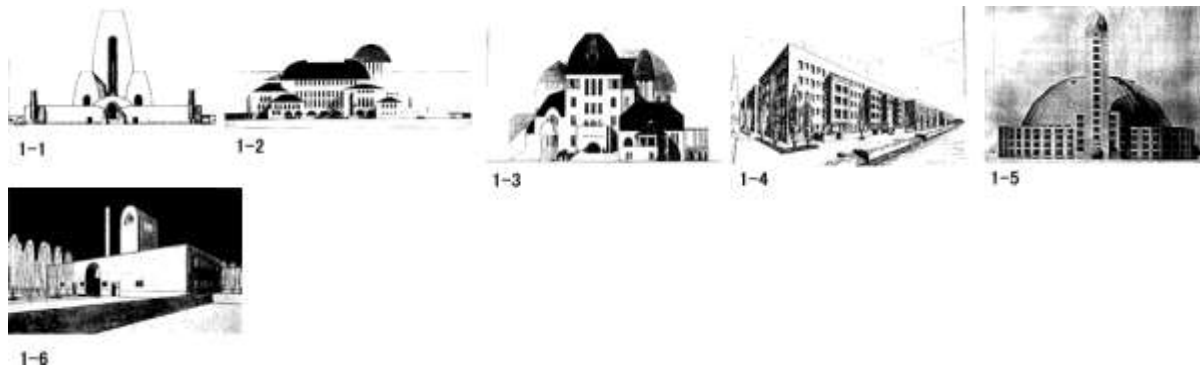
	推定出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感	
作品	習作展or第1回	石本喜久治	公会堂	図面	「公会堂」は3年の課題	1-1
	第1回	石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	図面、ドローイング	卒業計画法	
	習作展or第1回	堀口捨己	ある住宅への一つの草案	図面、ドローイング		1-2
	第1回	堀口捨己	ある会堂	ドローイング	正面図は、「宣言と作品」の表紙図案	
	習作展or第1回	堀口捨己	美術館への草案	図面	フリーハンドの立面イメージ。大阪市立美術館設計競技(T10.1締切)用の草案か？これを製図したものが「建築世界」大正9(1920)年12月号掲載の図案と思われる。	1-3
	第1回	堀口捨己	精神的な文明を来らしめんとして集る人々の中心建築への試案	計画主旨、図面	卒業計画法	
	第1回	瀧澤眞弓	山岳倶楽部	図面、ドローイング	卒業計画法	1-4
	習作展or第1回	瀧澤眞弓	公会堂	図面	「公会堂」は3年課題で張り出された(習作展出展の可能性あり?)	
	習作展or第1回	瀧澤眞弓	村役場試案	図面、ドローイング		1-5
	習作展or第1回	矢田茂	或る美術村の会館	ドローイング		
	第1回	矢田茂	職工長屋	図面、ドローイング	卒業計画法	1-6
	習作展or第1回	矢田茂	クレマトリウム	ドローイング		
	第1回	山田守	習作	図面	卒業計画法(「国際労働協会」の題名記載)	1-6
	習作展or第1回	山田守	公会堂	図面	「公会堂」は3年の課題	
	第1回	森田慶一	屠場	図面	卒業計画法	

論考	第1回展	石本喜久治	建築還元論	原初的な幾何学への遡及(還元)、複雑、理想の形の創造へ向う自己の思考プロセス。進化論の影響か？。
	第1回展	堀口捨己	建築に対する私の感想と態度	芸術としての建築の表現は、自己の本能的な欲求に基づいて生み出される。「偉大さ」、「荘厳さ」、「力強さ」への関心。日本古来の伝統に対する言及。
	第1回展	瀧澤眞弓	不平録	建築には、功利性の内に封じ込められ、または構造万能論に従属して事足りりとする以上の造形的価値を持つ。時代精神を基礎にこれを究明する決意が論旨を成していると考えられる。
	第1回展	矢田茂	懐疑より自覚へ	「建築は建築である。建築は絶対なり。」と、建築の自律性を論じ、これを扱う自己の人格形成への自覚。
	第1回展	山田守	吾人は如何なる建築を造るべきか	大正9年3月号「建築世界」誌上で「建築実態の研究に着目して建築観念を向上せしめよ」と題して左記論文の一部を発表済。「リズム式」「自然式」など造形試案を提示。
	第1回展	森田慶一	構造派に就いて	「構造派」の由来に言及。さらに構造派の考えあるむき出しの構造体の美、そこに欠けている芸術としての主観的表現への指摘。

『建築雑誌』 大正9(1920)年9月406号 岡田信一郎「分離派建築会の展覧会を観て」				
	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感
作品	石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	ドローイング	
	山田守	公会堂	ドローイング	
	山田守	習作(大ホール)	-	評あり図版なし
	森田慶一	屠場	ドローイング	
	堀口捨己	ある会堂	ドローイング	「宣言と作品」の表紙図案
	堀口捨己	美術館への草案	-	評あり図版なし
	堀口捨己	ある住宅への一草案	-	評あり図版なし
	堀口捨己	精神的な文明を来らしめんとして集る人々の中心建築への試案	-	評あり図版なし
	瀧澤眞弓	山岳倶楽部	ドローイング	
	瀧澤眞弓	公会堂	-	評あり図版なし
	瀧澤眞弓	村役場	-	評あり図版なし
	矢田茂	或る美術村の会館	ドローイング	
	矢田茂	職工長屋	-	評あり図版なし
矢田茂	クレマトリウム	-	評あり図版なし	

『建築世界』 大正9(1920)年11月号				
作品	瀧澤眞弓	公館入口スケッチ	ドローイング	

『建築世界』 大正9(1920)年12月号				
作品	堀口捨己	或る美術館の試案	図面	第1回展出品「美術館への草案」に基づき製図した立面。大阪市立美術館設計競技(T10.1)案か？



B. 第2回展

●第2回分離派展＝日時：大正10年(1921年)10月20日～24日、 場所：日本橋白木屋

第2回展主要掲載誌

『建築会』(第二刊) (岩波書店 大正10(1921)年10月20日発行)

	推定出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感		
作品	第2回展	堀口捨己	糸と光との塔(ある博覧会の装飾塔試案)	図面, ドローイング	平和記念東京博覧会, 「大正10年9月」の記載。	.2-1	
	第2回展	堀口捨己	ある博覧会の試案の一	図面	平和記念東京博覧会案		
	第2回展	堀口捨己	ある博覧会の試案の二 池に面した立面図と平面図	図面	平和記念東京博覧会実施案		
	第2回展	堀口捨己	その一部 動力機械館立面図	図面	平和記念東京博覧会実施案		
	第2回展	堀口捨己	同断面図と屋根平面図	図面	平和記念東京博覧会実施案	.2-2	
	第2回展	堀口捨己	その一部 林業鉱山館立面図	図面	平和記念東京博覧会実施案		
	第2回展	堀口捨己	その一部の模型 池より見た塔と動力機械館	模型	平和記念東京博覧会実施案		
	第2回展	瀧澤真弓	門と塀	実物写真	平和記念東京博覧会の事務所(*1)		
	第2回展	瀧澤真弓	或る事務所の階段室	実物写真	平和記念東京博覧会の事務所(*1)		
	第2回展	瀧澤真弓	山の家	図面, 模型		.2-3	
	第2回展	瀧澤真弓	陳列館	図面	平和記念東京博覧会実施案(化学工業館)(*1)		
	第2回展	瀧澤真弓	ある舞台面	ドローイング			
	第2回展	瀧澤真弓	野外音楽堂	ドローイング	平和記念東京博覧会実施案(*1)		
	第2回展	瀧澤真弓	入口試案	図面, ドローイング			
	第2回展	矢田茂	別荘	図面, ドローイング			
	第2回展	矢田茂	集古館	図面, ドローイング		.2-4	
	第2回展	山田守	フリーデザイン クレマトリウム	ドローイング	1920年		
	第2回展	山田守	フリーデザイン 牧人の家	ドローイング	1920年		
	第2回展	山田守	フリーデザイン 工場	ドローイング	1921年		
	第2回展	山田守	あるスバンドリルの彫刻の草案	ドローイング	1920年		
	第2回展	山田守	ある天井の透刻の草案	ドローイング	1921年		
	第2回展	山田守	ある門の草案	図面	1920年		
	第2回展	山田守	ある局の草案	図面	1921年 塔屋付4階建築。下関あるいは福岡, 兵庫の通信省電話課局舎と類似。		
	第2回展	山田守	ある電話局の草案	図面	1921年 3階建棟+塔屋付2階建棟案。下関あるいは福岡, 兵庫の通信省電話課局舎などと類似。	.2-5	
	第2回展	山田守	あるオフィスビルディングの草案	図面	1921年 東京中央電信局の素案	.2-6	
	第2回展	山田守	ある電話局の平面	図面	「ある電話局の草案」の平面図と考えられる。		
	第2回展	森田慶一	ある役所	図面, ドローイング		.2-7	
	第2回展	濱岡周忠	丘の上の展覧会場	図面, ドローイング, 模型	平和記念東京博覧会案		
	第2回展	濱岡周忠	池を背う音楽堂	図面, ドローイング, 模型	平和記念東京博覧会実施案	.2-8	
	論考	第2回展	堀口捨己	芸術と建築との感想		野田俊彦への反論としての建築芸術の所感、「分離」の意味の説明。	
		第2回展	瀧澤真弓	音楽と建築		新たな建築創造として、音楽の形式を置き換える提案。立方体マツ、直線美、曲線美などの建築要素とリズム、コントラストなど音楽要素の抽出。ゴシックその他の様式への言及。	
		第2回展	矢田茂	宇宙の孤児		「古代」「自然」「永遠」などを鍵とする散文。表現者たる自己の強調。	
第2回展		山田守	第二回分離派展覧会に於ける私の建築観		「分離」についての誤解への釈明。模倣性からの決別であり、過去の建築すべてとの断絶ではない。合理的な設計姿勢の説明。		
第2回展		森田慶一	工人的表現		構築するという実際的な行為(構立て)において投影される自己を、「工人的表現」によるものとする。		
第2回展	濱岡周忠	分離派建築会に感謝す		堀口、瀧澤両氏との出会いと感謝など。			
(注記)			*1:『近代建築史』(1965,蔵田周忠)の記述による。 奥付記載事項：石本喜久治は夫君病気の事情により、作品集に掲載出来ず。濱岡周忠が2回展より参加。矢田茂が12月から入隊。逸見、吉村、坂東3氏からの寄付への謝辞。九州からの高木、中林、吉村、中原4氏からの手紙への謝辞。岩波茂雄への謝辞。				

『建築雑誌』 大正11(1922)年3月428号 瀧澤真弓「時報 分離派建築会第2回展覧会」

作品		堀口捨己	ある博覧会の計画	模型	
		瀧澤真弓	山の家	模型	
		瀧澤真弓	野外音楽堂	模型	
		森田慶一	水管車置場	模型	
			第2回展会場風景写真		博覧会計画(堀口)の模型図面の展示が見える。



2-1



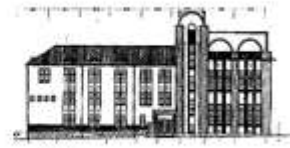
2-2



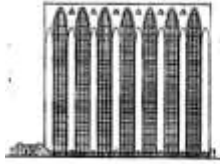
2-3



2-4



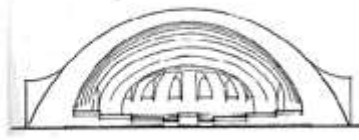
2-5



2-6



2-7



2-8

C. 関西第1回展から第4回展

●関西第1回展(石本渡欧送別会)	日時:大正11年(1922年)5月5日~7日	場所:京都高島屋
●第3回分離派展(堀口、大内渡欧送別会)	日時:大正12年(1923年)6月30日~7月5日	場所:星製菓
●帝都復興創案展覧会	日時:大正13年(1924年)4月13日~28日	場所:上野公園竹之台陳列館
●関西第2回展	日時:大正13年(1924年)5月	場所:大阪三越
●第4回分離派展	日時:大正13年(1924年)11月	場所:銀座松屋

『建築画報』大正12(1923)年9月号					
作品	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感	
	森田慶一	公館	模型	楽友会館の素案	
	石本喜久治	某氏邸	模型		
	堀口捨己	かべかけ、いすかけ	実物写真		

『国民美術』大正13(1924)年5月号 *備考欄の「記事」は濱岡周忠の記事「ラトオと創宇社と分離派のこと」を指す。					
作品	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感	
	岡村蚊象	丘上の記念塔	模型	創宇社として出展。震災記念塔設計競技(T14.2.28締切)用の案か?	
	瀧澤眞弓	音楽堂	模型		
	瀧澤眞弓	大隈公記念館	—	記事に記載。作品集第三刊掲載の「公館」を指すと思われる。	
	堀口捨己	切符売場	実物写真	平和記念東京博覧会の切符売り場	
	濱岡周忠	東京駅東口試案	模型		
	濱岡周忠	小劇場	模型		
	濱岡周忠	中央行政庁	—	「記事」に記載	
	濱岡周忠	早稲田の講堂	—	「記事」に記載	
	矢田茂	集古館	—	「記事」に記載	
	矢田茂	ある地の記念館	—	「記事」に記載	
	山田守	父の墓	—	「記事」に記載	
	山田守	舞踏場	—	「記事」に記載	
	山田守	倶楽部の広間	—	「記事」に記載	
	山田守	公会堂	模型		
	山田守	倉庫	—	「記事」に記載	

『建築新潮』大正13(1924)年6月号 *備考欄の「記事」は佐藤武夫「展覧会を觀て」(1924.5.10)を指す。					
作品	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感	
	矢田茂	試作	ドローイング	「ある土地の記念館」	
	瀧澤眞弓	音楽堂	模型		
	山田守	公会堂	模型		
	濱岡周忠	小劇場試作	模型		
	濱岡周忠	早稲田の講堂	—	「記事」に記載	
	瀧澤眞弓	早稲田の講堂	—	「記事」に記載	

第4回展までの主要掲載誌

・『分離派建築会の作品』（第三刊）（岩波書店 大正13(1924)年12月15日 *備考欄「記事」は濱岡周忠「図版の記事とその他」を指す。

	推定出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感
作品		石本喜久治	Composition	模型	
		石本喜久治	デパートメントストア	—	目次頁に記載。下記抗議案と同一か不明
		石本喜久治	市街地建築物法への抗議案として	模型	ミースの高層建築模型と類似
		石本喜久治	支店銀行	実物写真	竹中工務店における担当作
		石本喜久治	ある小学校	図面	実作。桃園第一尋常小学校(大阪市立桃園小学校)として1924年竣工。1993年取り壊し。
		瀧澤眞弓	野外音楽堂	実物写真, 模型	平和記念東京博における担当作
		瀧澤眞弓	野外劇場兼音楽堂	模型	
	復興復興創案展覧会	瀧澤眞弓	公館	図面, ドローイング	大隈総長記念大講堂設計競技(T12.7.5締切)への提出案(選外)。
	関西第1回展	濱岡周忠	小劇場試作	図面, 模型	1922年秋, 石本氏渡欧展にて発表とある(記事)。
	第3回展	濱岡周忠	中央行政庁	図面, ドローイング	1923年秋, 堀口, 大内渡欧展にて発表とある。大阪府庁を想定したもの(記事)。
	復興復興創案展覧会	濱岡周忠	東京駅東口試案	図面, 模型	1924年春, 復興創案展で発表とある(記事)。
	第4回展	濱岡周忠	停車場案	図面, ドローイング	大連駅設計競技(T13.7締切)案とある(記
	第4回展	堀口捨己	画室と小温室とを持つ船川氏の住宅	図面, 模型	
	第3回展	森田慶一	公館	図面	楽友会館の図面
		矢田茂	祠堂	模型	
		矢田茂	電機製作所	ドローイング	
		矢田茂	高層建築	図面, ドローイング	
	復興復興創案展覧会	矢田茂	ある土地の記念館	ドローイング	
	第3回展又は復興創案展	山田守	父の墓	模型, ドローイング	図中1923年との年代記載あり
		山田守	公会堂	図面, 模型	
第3回展又は復興創案展	山田守	倉庫	図面, 模型		
第3回展又は第4回展	山田守	事務建築	ドローイング	図中1923年との年代記載あり	
復興復興創案展覧会	岡村蚊象	丘上の記念塔	図面, ドローイング, 模型	創宇社展にも出展。東京大震災記念建造物設計競技(T14.2締切)用の案か?(提出不詳)	
	岡村蚊象	住宅	図面, 模型		
論考	第4回展	石本喜久治	タウト一派の傾向価値		渡独の成果として著した『建築譜』の抄録記事。B・タウトの動向を紹介。
	第4回展	瀧澤眞弓	建築観相		建築と音楽の共通性への考察。「音楽は流動する建築」との思い。ゴシック建築と音楽形式(フーガ形式、バッハの曲)への言及。
	第4回展	濱岡周忠	建築家の立場		建築表現の可能性を、機能と架構に基づく非対象の「構成」に見出す。
	第4回展	濱岡周忠	図版の記事とその他		自作の創作経緯。
	第4回展	森田慶一	構造に就いて		建築の本質としての構造を「構立て(くみたて)」と呼び、構造派の非芸術的な思考と区別。
	第4回展	山田守	VolmenのSymphonieとして建築を創作したい		機械的な線から曲線や曲面へ「進化」する見方。
	第4回展	岡村蚊象	制作する心		機械賛美の未来派宣言的散文。

・『建築画報』1924(大正13年)年12月号

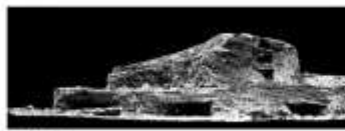
作品		石本喜久治	住宅の草案	図面, ドローイング
		瀧澤眞弓	音楽堂模型	模型
		堀口捨己	アトリエと小温室のある住宅模型	模型
		濱岡周忠	停車場模型	模型
		岡村蚊象	停車場模型	模型



3-4-1



3-4-2



3-4-3



3-4-4



3-4-5



3-4-6



3-4-7



3-4-8

D. 第5回展

●第5回分離派展 日時:大正15年(1926年)1月27日~31日, 場所:日本橋白木屋

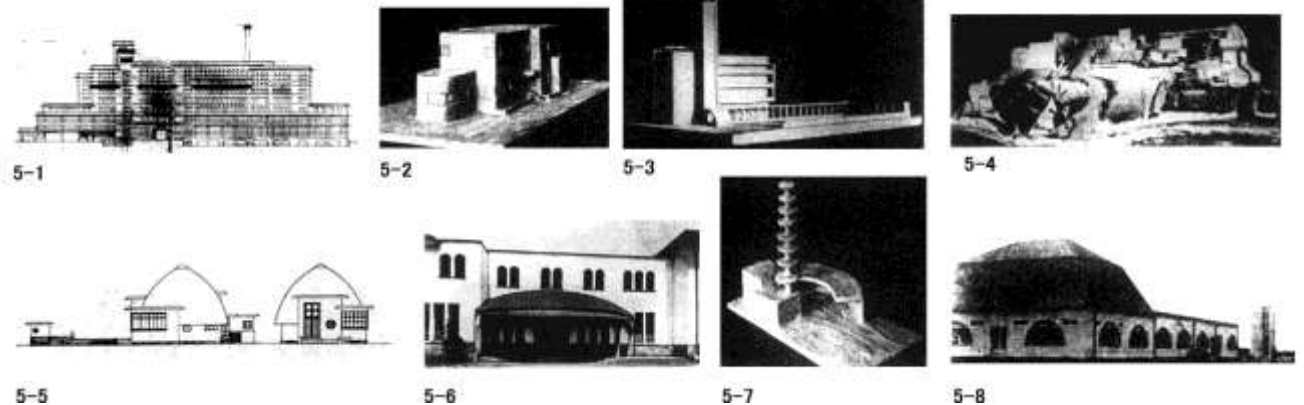
第5回展主要掲載誌

・『建築新潮』1926(大正15)年第3号(分離派建築会第5回展覧会作品号) *備考欄の「記事」は、同号「分離派建築展記事」(矢田茂記)を指す

出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感	
第5回展	石本喜久治	東京朝日新聞社	図面, 鉄骨模型	5-1	
第5回展	石本喜久治	京都M氏案	—	「記事」に記載。	
第5回展	石本喜久治	大阪土井氏貸長屋	—	「記事」に記載。	
第5回展	大内秀一郎	住宅(2点)	図面, 模型	5-2	
第5回展	岡村蚊象	市民会館案	図面, 模型	5-3	
第5回展	岡村蚊象	数寄屋橋	模型	復興局土木部橋梁課に於いて、とある(記事)	
第5回展	蔵田周忠	住宅の一群	模型	5-4	
第5回展	蔵田周忠	聖シオン会堂	実物写真	正面及び内部ステンドグラスの2点。ステンドグラスは現地(ミカエル教会)に現存する。敷地を提供した斎藤みどり一家は、後に、蔵田の設計による乾式工法住宅(等々力・斎藤邸)に移り住む。	
作品	第5回展	蔵田周忠	銀行	—	「記事」に記載。
第5回展	瀧澤眞弓	土橋氏住宅	実物写真	外観及び内観(内装工事未了)、牛込で工事中(記事)	
第5回展	堀口捨己	茅葺住家	図面, 模型	5-5	
第5回展	森田慶一	会館	実物写真	5-6	
第5回展	矢田茂	住宅	図面, 模型	図面中「窯業家の住宅平面図」とある	
第5回展	矢田茂	墓	図面, 模型	5-7	
第5回展	矢田茂	博物館	図面, パース		
第5回展	山田守	かたちの習作	模型		
第5回展	山田守	ある受信局	実物写真	5-8	
第5回展	山田守	新東京中央電信局	—	「記事」に記載。	
第5回展	平松義彦	建築	模型	公募作品	
第5回展	野口巖	ある人々への陳列館として	模型	公募作品	
第5回展	小川光三	コムポジション	模型	公募作品	
第5回展	山口榮一	アトリエと製作品工場	模型	公募作品	
論考	第5回展	堀口捨己	造形美術・建築藝術を語る 第5回分離派建築展覧会に際して	「純正芸術」との対比でパウハウスの工芸を人間生活に根ざす造形として紹介、若干の考察。大正15年1月とある。	
第5回展	瀧澤眞弓	知られざる人々の偉業 中世紀主義論・序論		中世ゴシック建築を論じ無名性を称揚。一部シュペンラーの引用あり。ラスキン、モリスと異なる旨、また室伏高信と異なる旨の付記あり。	
(注記)	・1月29日に京橋の実業ビル共楽軒にて茶話会が催された(34名出席)(記事) ・公募応募案として、川野氏「教会堂」、梅野氏「小学校案」、「棧橋上屋」、石持氏「諸図」、山崎氏「住宅」、今吉氏、末澤氏、石田氏、渡川氏、梅田氏、竹村氏、ウィルソン氏らの作品へ言及。(「建築新潮」同月号「公募作品について」、蔵田周忠)				

・『建築新潮』1926(大正15)年第4号 佐藤武夫「分離派建築展を観て」(3月11日)

作品 岡村蚊象 壁掛 会場ディスプレイ用幕



E. 第6回展

●第6回分離派展 日時:昭和2年(1927年)1月2日~26日, 場所:日本橋白木屋

第6回展主要掲載誌

・『建築新潮』1927(昭和2)年第3号(分離派建築会第6回展覧会号) *備考欄の「記事」とは、「分離派建築展記事」(堀口捨己)を指す。

	出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感
作品	第6回展	石本喜久治	某貯蓄銀行	模型	.6-1
	第6回展	石本喜久治	住宅	図面, 実物写真	「H教授の住居」とある(記事)。
	第6回展	石本喜久治	東京朝日新聞社	実物写真	工事中の写真
	第6回展	石本喜久治, 岡村蚊象	緞帳意匠	図案	油彩。朝日新聞社設置用
	第6回展	石本喜久治, 岡村蚊象	楣石意匠	模型	朝日新聞社設置用
	第6回展	岡村蚊象	工業地域に建つアパートメント計画(二千四百世帯約一萬人収容)	図面, 模型	.6-2
	第6回展	大内秀一郎	南国の温泉場につつ浴場	図面	平面図, 立面図
	第6回展	蔵田周忠	住宅	図面, 模型	.6-3
	第6回展	瀧澤眞弓	形の習作	ドローイング, 模型	.6-4
	第6回展	瀧澤眞弓	土橋氏住宅	—	.6-5
	第6回展	堀口捨己	家具	実物写真	「記事」に記載。双鐘居広間用(布張りの色が異なる?)
	第6回展	堀口捨己	紫烟荘	—	「記事」に記載。
	第6回展	森田慶一	病院設計図	図面	.6-6
	第6回展	矢田茂	街角のレストラン	図面, 模型	北野病院の図面
	第6回展	山田守	小郵便局	実物写真	.6-7
	第6回展	山田守	建築図案	—	日本橋新衛門町郵便局
	第6回展	川喜田煉七郎	或る音楽礼拝堂の設計	図面, ドローイング, 模型	.6-8
	第6回展	関根建築事務所	多摩川原娯楽場	—	.6-9
論考	第6回展	瀧澤眞弓	日本建築を想ふ 第六回分離派建築展に際して		日本古来の建築美から建築の芸術性を論じた。(国粹的との批判を受けたとされる)
	第6回展	森田慶一	雑題		「機能主義」が建築原理を示す言葉ではなく、近代の類型的な一般傾向に対する呼称に過ぎないことを指摘。そこには美を認めつつも芸術足り得ないとする。さらに芸術としての建築の建築論への関心を表明。
	第6回展	石本喜久治	「建築のファシズム」其他		瀧澤の日本建築論を批判。
	第6回展	大内秀一郎	建築における芸術性		究極的には機械に近づく機能主義に対して、人間感情の表現を旨とした芸術性を求める。



6-1



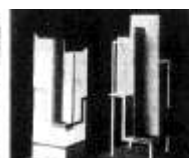
6-2



6-3



6-4



6-5



6-6



6-7



6-8



6-9



6-10

F. 第7回展

●第7回分離派展 日時:昭和3年(1928年)9月16日~20日, 場所:日本橋三越

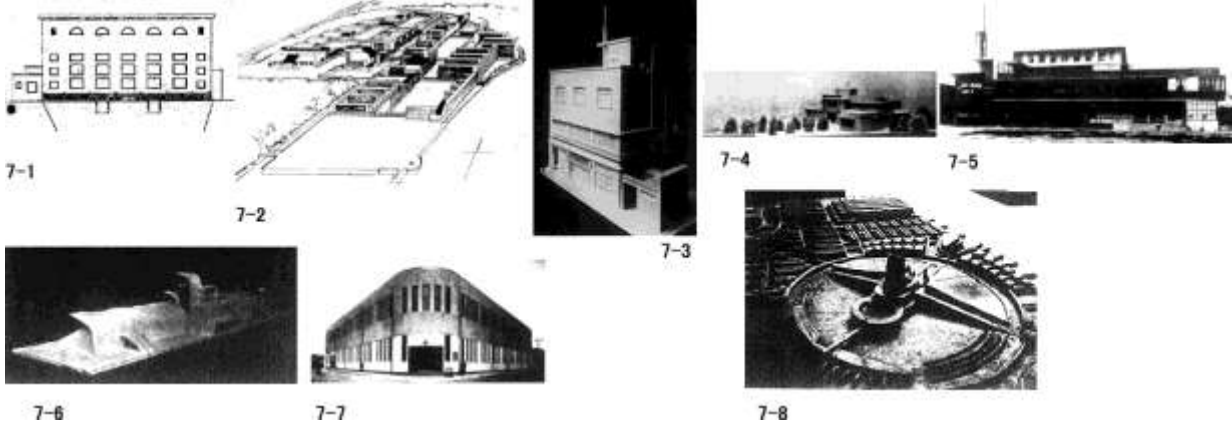
第7回展主要掲載誌

・『建築新潮』1928(昭和3)年第11号(分離派建築会第6回展覧会号) *備考欄の「手記」は堀口捨己による巻末記事の記述を指す。

	出展時期	出展者名	作品タイトル	掲載物	備考・所感
作品	第7回展	大内秀一郎	居間の一隅(家具)	実物	
	第7回展	大内秀一郎	或る水力発電所	図面	
	第7回展	大内秀一郎	街にたつホテル	—	「手記」に記載
	第7回展	大内秀一郎	建築的構成	—	「手記」に記載
	第7回展	蔵田周忠	工芸博物館と工芸学校の草案	図面, ドローイング, 模型	
	第7回展	蔵田周忠	住宅	—	「手記」に記載
	第7回展	蔵田周忠	居間と応接室の一隅	実物	出展目録では応接室の家具, 小住宅の家具(手記)
	第7回展	瀧澤眞弓	「寶来屋」	図面, 模型	実施された(非現存)
	第7回展	瀧澤眞弓	家具(婦人応接室)	実物	
	第7回展	瀧澤眞弓	ホテル草案	—	「手記」に記載
	第7回展	堀口捨己	建築模型(住宅として)	模型	吉川邸
	第7回展	堀口捨己	家具(小住宅の食堂)	実物	
	第7回展	堀口捨己	茅屋根小住宅	図面, ドローイング	
	第7回展	堀口捨己	双鐘居	—	「手記」に記載
	第7回展	森田慶一	病院	実物写真	北野病院(非現存)
	第7回展	森田慶一	住宅	図面, ドローイング	
	第7回展	矢田茂	競馬場スタンド	図面, 模型	
	第7回展	矢田茂	書斎(家具)	実物	
	第7回展	山田守	階段室	実物写真	
	第7回展	山田守	シャンデリア	実物	
	第7回展	山田守	或る電話局	実物写真	岐阜郵便局電話分室(非現存)
	第7回展	山田守	家具	実物	「小住宅の食堂」とある(手記)
	第7回展	川喜田煉七郎	浅草改造案	図面, 模型	客員出展
	第7回展	伊藤幸雄	遊園地に建つ休憩所	ドローイング	客員出展。出展目録にはレストランとある(手記)。
	第7回展	東畑謙三	共同住宅設計図	図面, ドローイング	客員出展
論	第7回展	森田慶一	「いみたちを・こるぶしえり」その他		ギリシャ古典建築の知見に基き、コルビュジエの主張を考察。
	第7回展	山田守	作者としての言葉		個性を肯定する散文調の記述。「円滑なる曲面」「衛生的な形態」などの語彙がみられる。
	第7回展	矢田茂	断片感想録		日本の建築の「デテイル主義」、最近の建築の流行現象などを憂慮。
	第7回展	瀧澤眞弓	壁を撫でる		
	第7回展	大内秀一郎	建築漫言		
(注記)	・土浦亀城の出展が予定されていたが間に合わず(家具, 棚, 運搬車, テーブル, 肘掛椅子, 絨毯を予定していた)(手記) ・石本喜久治は脱会により出展無し。				

・『建築新潮』1928(昭和3)年第12号 谷口吉郎「分離派批判」(1928.10.4)

作品	堀口捨己	双鐘居	実物写真	建築と人間生活の有機的關係への思索を欠いた耽美主義の傾向を、「現実よりの『分離』」として批判。 挿入図版として堀口の双鐘居の玄関前, 居間の写真2点。
----	------	-----	------	--



【付記】戦後の分離派掲載文献から

『日本の近代建築』（稲垣栄三 丸善 1959年）					
作品		堀口捨己	画室と小温室とを持つ船川氏の住宅	模型	作品集第三刊掲載
		石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	図面	第1回展出展 卒業計画
		濱岡周忠	中央行政庁	図面, ドローイング	作品集第三刊掲載
		石本喜久治	市街地建築物法への抗議案として	模型	作品集第三刊掲載

『近代建築史』（蔵田周忠 相模書房 1965年）					
作品		会場風景写真			聖橋の模型(山田), 音楽堂(瀧澤), 船川邸模型(堀口), 父の墓(山田)などが見えるところから、第4回展の会場風景と思われる。(キャプションには第1回展とあるが誤り)
		石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	ドローイング	第1回展出展 卒業計画
		瀧澤真弓	野外音楽堂	実物写真	第2回展出展
		瀧澤真弓	公館	図面	作品集第三刊掲載
		蔵田周忠	停車場案	ドローイング	作品集第三刊掲載
		堀口捨己	住宅模型	模型	作品集第三刊掲載
		岡村蚊象	丘上の記念塔	模型	作品集第三刊掲載
		山田守	倉庫	図面, 模型	作品集第三刊掲載
		堀口捨己	精神的な文明を来さんとする人々の中心建築への草案(1920)	図面	第1回展出展 卒業計画
		森田慶一	楽友会館	図面	第5回展出展「会館」

『ドイツ表現派の建築』（山口廣 井上書院刊 1972年）					
作品		堀口捨己	第1集表紙カット	ドローイング	第1回展出展「ある会堂」
		石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	図面	第1回展出展 卒業計画
		瀧澤真弓	山の家	模型	第2回展出展
		山田守	あるオフィスビルディングの草案	図面	第2回展出展
		堀口捨己	船川氏の住宅	模型	作品集第三刊掲載
		濱岡周忠	中央行政庁	ドローイング	作品集第三刊掲載
		矢田茂	ある土地の記念館	ドローイング	作品集第三刊掲載

『神殿か獄舎か』（長谷川堯 相模書房 1972年）					
作品		山田守	習作	図面	第1回展出展 卒業計画
		瀧澤真弓	入口試案	ドローイング	第2回展出展
		石本喜久治	涙凝れり(ある一族の納骨堂)	ドローイング	第1回展出展 卒業計画
		堀口捨己	或る美術館の試案	図面	第1回展出展「美術館の草案」スケッチに基づく。『建築世界』(T9,12月号)掲載
		瀧澤真弓	山岳倶楽部	図面	第1回展出展 卒業計画
		山田守	かたちの習作	模型	第5回展出展
		山田守	父の墓	模型・ドローイング	作品集第三刊掲載
		瀧澤真弓	山の家	模型	第2回展出展
		瀧澤真弓	公会堂	図面	作品集第三刊掲載「公館」
		堀口捨己	平和記念東京博覧会 記念塔, 交通館, 動力機械館	実物写真	第2回展において計画案, 模型などを出展
		岡村蚊象	丘上の記念塔	ドローイング	作品集第三刊掲載「丘上の記念塔」
		矢田茂	高層建築のスケッチ	ドローイング	作品集第三刊掲載「高層建築」
		堀口捨己	紫煙荘	実物写真	第5回展では「茅葺住家」として図面出展
		蔵田周忠	聖シオン教会	実物写真	第5回展出展「聖シオン会堂」
		石本喜久治	東京朝日新聞社内部	実物写真	第6回展では、工事中の写真を出展
		関根要太郎	京王閣内部	実物写真	第6回展関根の公募作「多摩川原娯楽場」として出展。関根事務所在籍中の蔵田が設計担当